

熊本地震

TMAT 災害医療活動報告

平成 28 年 4 月 15 日 17:00

第 2 報

4 月 15 日

7:00 頃 先遣隊として派遣された 6 名は、益城町役場にて他の医療チームと情報交換を行い待機していたが、日が昇り始め頃から外傷患者（軽傷）が訪れるようになった。

8:30 頃 先遣隊は 59 歳女性と 8 歳女兒に対して外傷処置を実施した。数名の患者が訪れていたが、複数の DMAT チームも待機しているため分担をして診療を行った。

9:15 頃 対策本部より、上益城郡にある「矢部広域病院」の状況調査を依頼され、同病院に向かった。

10:00 頃「矢部広域病院」に到着。断水はあるものの他のライフラインは確保されており、透析を含めた診療は維持できていた。緊急の支援の必要はないと判断し、益城町役場対策本部へ戻ることとなった。

なお、坂元医師のみ熊本を離れ福岡へ戻った（6 時頃）。以降、鈴木医師が隊長として活動している。

11:30 頃 「矢部広域病院」の状況調査より益城町役場に戻った先遣隊 5 名は同所に参集している医療チーム、災害対策本部と情報交換を行なったのち、今後の活動について検討を行った。

- 現在、九州各地からの DMAT69 チーム（約 350 名）が参集しており、熊本県よりチーム派遣の自粛要請が出されている。
（集合場所となっている熊本赤十字病院では、待機しているチームが多数いる）
- 緊急性の高い患者は少なく、医療ニーズは減少している。
- 周辺地域の状況調査からも、被害は局所的（益城町）である。
- 救急を受け入れるべく地元の医療機関は十分に機能している。

以上の理由から、NPO 法人 TMAP としての追加派遣は行わず、先遣隊の活動を持って終了することを決定。

なお、福岡徳洲会病院チームは福岡県からの県 DMAT の指定を受けており、同日午前 1 時頃県 DMAT としての派遣要請も出されています。しかしながら、多くの DMAT チームが参集しており、医療チームの供給過多状態になっていることから、福岡県 DMAT としても撤収することとなりました。

15:00 頃 福岡徳洲会病院チームメンバー 5 名が無事に同院に帰着。

これをもって、熊本地震 TMAP 緊急医療支援活動を終了いたします。ご支援ご協力誠にありがとうございました。



外傷処置をする TMAP チーム



活動を終えたメンバー

事務局担当

野口 幸洋 (NPO 法人 TMAP / 一般社団法人徳洲会東京本部)

(文責 事務局 野口 幸洋)